

研究・調査報告書

報告書番号 2	担当 札幌医科大学医学部薬理学講座
題名 (原題/訳) Wine drinking and risks of cardiovascular complications after recent acute myocardial infarction. ワイン飲酒と急性心筋梗塞後の心臓脈管系合併症の危険性	
執筆者 de Lorgeril M, Salen P, Martin JL, Boucher F, Paillard F, de Leiris J.	
掲載誌 (番号又は発行年月日) Circulation 106(12):1465-1469 (2002)	
キーワード ワイン、心筋梗塞、心臓脈管系合併症	
要旨 <p>背景: 急性心筋梗塞後の中等度アルコール摂取の臨床的影響についての科学的検証は少なく、ワインの効果についても検討されていない。</p> <p>方法と結果: 急性心筋梗塞の生存者について、エタノール摂取と再発の危険性との関連について解析した。患者(437人)は通常摂取しているエタノール量によって分類された。急性心筋梗塞の程度と薬物治療を含んだ主要な予後因子が記録され、分析に加えられた。平均的エタノール摂取量は総摂取カロリーの7.6%で、全体の92%はワインとしてエタノールを摂取していた。平均4年の追跡調査の間に、これらの患者の中で104人が心臓脈管系合併症を発症した。合併症発症の標準化危険率は禁酒者と比較して、総摂取カロリーの7.7%をエタノールで摂取していた患者では59%まで、16%をエタノールで摂取していた患者(1日約4回の飲酒)では52%まで低下していた。</p> <p>結論: 冠動脈性心臓病患者を母集団とする本研究で、中等度のワイン飲酒者では合併症の危険性が有意に低下していた。しかし、この結果を確立するには、心筋梗塞後のワイン飲酒の利益を最も受けるこれら患者の臨床的ならびに生化学的特徴を明確にして、見いだされた関連性がエタノールによるものなのか、他のワイン含有物によるものなのかを検討する研究が必要である。</p>	